
ノン カピスコ・彼女の卵

天野 涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノン カピスコ・彼女の卵

【NZコード】

N0122E

【作者名】

天野 泪

【あらすじ】

不妊で悩む真理子は、友達の由実の卵子をつかって体外受精をするが・・・。

私の人生に足りないのは子供。

優しい夫、きれいな家。看護師と言つやりがいのある仕事。
しかし子供だけが足りなかつた。

それが足りないばかりに、義母に厭味を言われ、私は焦つていた。
夫の実家は、由緒ある家柄で、絶系は許されない。

その上、卵巣に欠陥がみつかり、

妊娠が困難であることがわかつたのだ。

夫は『仕方ないよ。』と言つてはくれるが、私は諦めきれなかつた。

そんな時、由美にばつたり会つたのだ。

駅前のスーパー、久しぶりだつた。彼女は小学生の子供と一緒に。
噂では離婚し、実家近くに母子で暮らしてると聞いた。
色白の美人で、男子にも人気があつたのだ。

久々に会つた由美は、少しあつれではいるが、きれい。

『あら、久しぶり。』由美は屈託なく笑い、私に近付いてきた。
私はつい、話を聞いてもらいたくて、由美を家に招き入れたのだ。

『へえ、それは深刻ね。』

由美は、同情したように言つ。傍らには息子の健太が、ヨーグルト
を食べていた。
家につくなり、『ママ、お腹が空いた。』と言つので、
冷蔵庫にあつた買い置きの物をあげたのである。

(なんかイヤな子) そう思つた。

でも子供だから、仕方がない。そう思つことにしたのだ。

『じゃあ、私の卵子あげてもいいわよ。』と唐突に由美が言い出す。

彼女の卵子と夫の精子を体外受精させて、私の子宮に戻せばいい……
由美はそう言った。

私には女の姉妹がない。知らない誰かの卵子の提供を受けるよりは
美人で、優等生だった由美の卵子をもらう……それはいい考え方
かもしれない。

そう話がまとまるごと、夫にも承諾を得て、由美の卵子の提供で
私達は体外受精をしたのだ。

その間、彼女に何かお礼をと思っていると、由美は
『うちの子を、私が帰宅するまで 預かってくれるだけでいいわ。
その方が、私も安心だし……』と控えめに笑ったのだ。

しかし、実際は週4回は、彼女の帰宅が遅く
息子の健太は、ついで夕食を食べることになり、何ともやりきれない
思いがした。

おまけに、お風呂まで 夫とはいる始末。

夫は帰宅すると、健太を膝に抱いたりしたのだ。

由美はと言えば、悪びれる風もなく、その都度口だけは
申し訳なさそうにしていた。そして何やら、最近はふつぶつとして
きたのである。

しかし……肝心の体外受精は 度々失敗に終わる。
私は、正直イラだつていた。

そしてある日、つい由美に語りてしまつ。

『また、失敗してしまったわ。』と

由美は一瞬眼を見開き、キツい口調で言った。

『何？ソレは、私の卵子のせいだと言いたいの？』

あまりの口調に、私は少したじろぐ。

いえ、こめんなさい、て、悪か、かれ

『だいたい、あなた、卵子だけでなく、ハタケそのものも欠陥なんじゃない?』

• 7

私は、簡単に出来たわよ。あなたのこ主人の子供。
『え？』

お義母サンも喜んでくれたね。孫を早くみたいって

『子供も産めない嫁なんていらぬって。体外受精なんて、かつたることやめて、

こ主人も、私に直の方が気持ちいいし、樂じやない。

もう、私の居場所はなくなつていた。・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0122e/>

ノン カピスコ・彼女の卵

2010年12月10日23時19分発行